

事業報告書

1 支援団体名	筑後川まるごと博物館運営委員会
2 事業名称	1953年筑後川大水害の記憶を伝える活動
3 実施日時	2017年6月～2018年2月
4 実施場所	福岡県久留米市内筑後川周辺
5 事業目的、内容及びその効果	<p>(事業実施状況・内容)</p> <p>① 昭和28年筑後川大水害写真展を筑後川くるめウスで行った。子どもたちから高齢者まで、家族連れの方など多くの来館者が写真とその解説文に興味深く見ていた。 9月の防災月間の期間、約1か月間くるめウスにおいて展示した。 昭和28年大水害写真展(くるめウス)9月 約900人</p> <p>② 昭和28年筑後川大水害の体験者に集まっていただき、当時の体験談を語っていただく証言発表会を筑後川防災施設くるめウスで行った。事前募集に応じた方3名と当日会場から飛び入りで4名の方が身振り手振りで詳細に発表した。 また主催者から、ハザードマップと当時の写真を示して比較しながら、洪水時の水位をわかりやすくして大水害当時の状況をスライドショーで聞き語り解説した。 7月9日実施 37人参加</p> <p>③ 証言発表会と写真展と同時に水害に関する記憶の収集を行った。体験者に記憶ノートや付箋紙に情報を書き込んでもらいまた関連の資料の収集をして情報を集めた。</p>
	<p>(事業実施効果)</p> <p>① 実際の体験者の証言は聞く人に臨場感を与え、普段の災害への備えを思い起こさせる。</p> <p>② 当時の大水害の写真は、当時の現場や周辺の様子が充分にわかり、現在のその場所もひとたび水害となれば水位がそこまで来ることが予想でき、住民にとって災害に備えることができると、好評だった。</p> <p>③ 災害の記憶資料を収集し公開することで、水害を知らない人や後世の人々に水害は過去のことではなく、今も起こりうることを実感させることができた。</p>
6 参加内訳	総人数 905名
	(1) 主催者参加 5名
	(2) 日本人参加((1)を除く) 900名
	(3) 外国人参加((1)を除く) 0名
7 今後の方針	大水害から63年を経過しても、いつ起きるとも知れない水害への備えは常に行う必要がある。人々に過去の災害と備えの必要性を伝えるこの活動は今後も継続して行く必要がある。これからも体験者の声を伝え、そこから教訓や備えの大事さを広めていきたい。

7月9日昭和28年大水害体験者による証言発表会



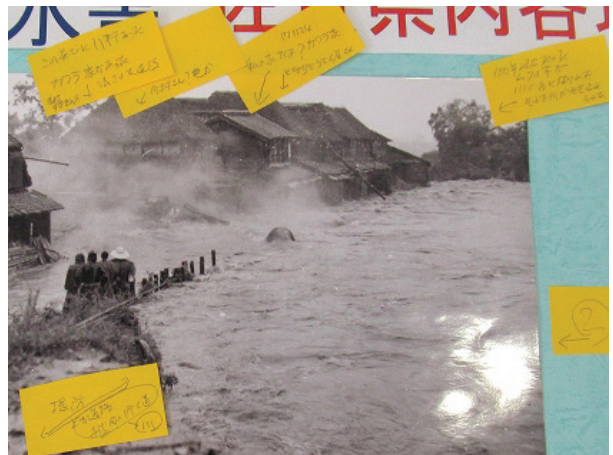
7月9日昭和28年大水害体験者による証言発表会



9月 筑後川防災施設くめウスで大水害写真展



写真に付箋紙を張ることで情報収集をおこなった



体験者に当時の資料、写真などを提供していただいた



来場者に大水害の体験談を記入していただいた

